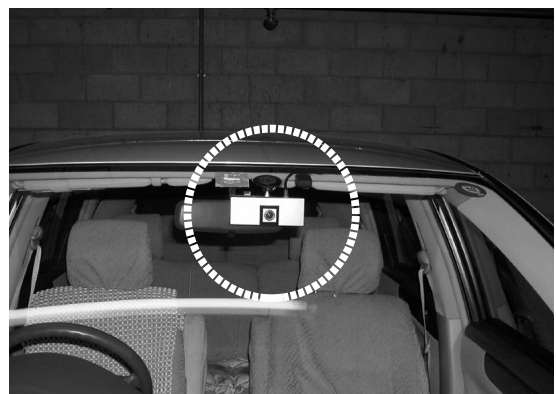


ドライブレコーダーとは

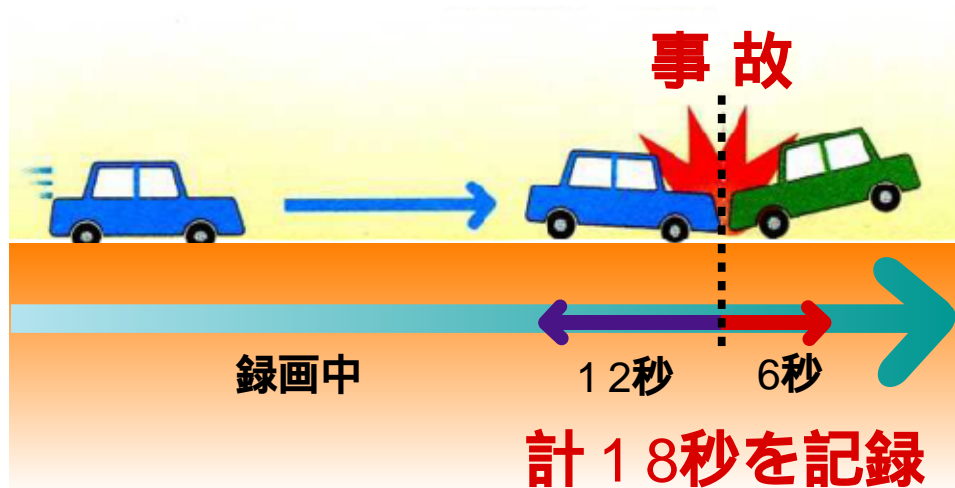
- ドライブレコーダーは、走行中の自動車が万一事故を起こした時、その瞬間を映像とデータで記録する装置です。
- 事故が起きた時の衝撃や急ブレーキなどでセンサーが働き、事故前後合わせて18秒間の映像と、スピードなどのデータが記録されます。
- 記録された画像やデータは、専用のソフトで動画として再生し確認することが出来るので正確かつ客観的な証拠となります。
- ドライブレコーダーはルームミラーの部分に取り付けるため、運転の支障にはなりません。



バックミラーにつけた車載監視カメラ

ドライブレコーダーの動き

対向車線からの急な針路変更の事故画像です



衝突 1.2秒前



衝突 0.2秒前



衝突



全国交通事故遺族の会の要望

- 1** ドライブレコーダーの記録を、刑事・民事裁判の証拠として採用して下さい。また、すべての情報を被害者・加害者の双方に開示して下さい。
- 2** 事故後、ドライブレコーダーの記録の提出を義務化して下さい。さらに、それを解析するための公平な第三者機関「解析センター」を設置して下さい。
- 3** ドライブレコーダーのデータベースを構築し、自動車運転講習会や企業内研修に利用し、事故防止対策に活用して下さい。
- 4** 早期にすべての車に標準搭載するようにして下さい。

ドライブレコーダー働きと効果

- 1** 万一事故が発生した場合、記録された映像とデータが客観的証拠となり、事故原因が一目瞭然で分るため、被害者・加害者双方が納得出来る証拠となります。
- 2** 運転中の急ブレーキや急ハンドルなども記録されるため、運転者は運転中常に監視されているとの意識が働き、安全運転をするようになります。
- 3** ドライブレコーダー搭載により事故率が減少する効果が期待出来ます。タクシー会社によっては50%近い事故防止効果がありました。
- 4** 国土交通省による実証試験でも、ドライブレコーダー搭載車の事故防止効果が確認されています。